



竹との共生

大足区は、安曇野市の東側、松本市四賀との境に位置する、120世帯ほどの集落。面積の多くは森林で占められており、このうち1割ほどが竹林で構成されています。

これらの竹林は、地すべりを防ぐほか、ひと昔前までは、熊手やザルなどの竹細工の材料として利用されてきました。しか

し近年では、竹細工などの活用はほとんどされなくなり、整備しきれない状態が目立つようになりました。また、その旺盛な生命力から、他の林に進入する問題も起きていました。

平成11年6月、「資源であるタケを活用して振興につなげられないか」と考えた所有者が中心となり、大足竹林組合が誕生しました。

組合員はまず、タケノコの生

産から取り組み始めました。

「この区画を3つに分け、タケノコがどんな風に育つかを試しました」と試験地の竹林を案内してくれたのは、副組合長の大堀洋一さん（大足）。結成当初からこの取り組みにかかわっています。

調査は、伐採のない区域、ある程度伐採した区域、それに加え肥料を与えた区域に分け、成長を観察するというもので、県

や旧明科町とともに研究を重ねました。

調査結果は歴然としたもので、整備し肥料を与えた所からは、未整備の4倍ほどの量のタケノコが育つことが分かりました。

これらの研究や取り組みにより、組合のタケノコの生産量は拡大し、平成12年には0・7トであったものが、平成16年には2・5倍の1・8トに伸び、そ

れとともに竹林の整備を進めました。

大堀さんは「個々で竹林を整備していくことは、とても大変。まとまることで整備も可能になります。いつか竹林を背景にして、地元でイベントができれば最高」とほほえみます。

まっすぐ天に伸びる竹のよう

に、大堀さんは夢をはぐくんでいます。

アイデアと心意気。

タケノコ祭り。

